

# 地域が一体となって家庭教育支援を 地域の「担い手」の養成

乳幼児期からの子供の教育を支援するためには、地域において乳幼児と親が、孤立しないで気軽に相談できるようなつながり(社会的つながり)をつくるなど、地域が一体となって家庭における教育を支援する仕組みをつくっていく必要があります。その「社会的つながり」づくりや仕組みづくりを地域で促す「支援チーム」(活動のイメージは右図)の核となる人材～「担い手」～を養成する研修に取り組んでいます。

平成21年度には、「担い手」養成のためのカリキュラムを作成する委員会を設置して、「担い手」に必要な資質・能力を明らかにし、それらを習得する研修の基本プログラム(下表)を開発しました。さらに、この基本プログラムを研修プログラムとして企画して、全都対象の養成研修を2回実施しました。

また、今年度は、基本プログラムをもとに全都対象の研修を1回、地区別研修を豊島区、青梅市、瑞穂町の3地区で実施しました。

今年度の全都対象の研修と青梅地区の研修を次ページ以降で紹介します。



## 「担い手」養成研修の基本となるプログラム —ねらい、学習項目の組み合わせ等—

	メインテーマ	学習方法	ねらい	学習項目例
1	子供の現状と発達の課題を学ぶ	講義	現代の親子の生活の現状及び子供の発達について理解する。	○現代の親子・家庭の現状 ○子育て文化継承の現状 ○国・都・当該地域における家庭教育支援に関する施策・事業 ○子供の心身や社会性の発達(脳科学の観点から)
2	「担い手」について理解する	講義	家庭教育支援の現代的意義と「担い手」の重要性を理解する。	○「担い手」と「家庭教育支援チーム」の意義 ○「担い手」の活動範囲(市民性の観点から)
3	いろいろな地域事例から学ぶ	事例発表&講義	「担い手」の活動を具体的にイメージする。	○家庭教育・子育ての支援に関する地域住民の活動
4		情報交換と課題発見	受講者相互の情報交換と次回の演習の準備を行う。	○家庭教育・子育ての支援に関する地域住民の活動 ○ネットワーク形成の方法
5	課題をふまえて、今、地域に必要な「担い手」を考える	グループワーク&ミニ・レクチャー	各自が地域において「担い手」として取り組む活動をイメージする。	○地域における課題の発見・把握の方法 ○子供の人権 ○守秘義務と通告義務
6		グループワーク&ミニ・レクチャー	地域において「担い手」として取り組む、各自の具体的な活動のシナリオを作る。	○企画立案の技術 ○地域資源の開拓・活用の方法 ○地域情報の活用方法 ○情報提供の方法 ○協働提案の方法
7	まとめ		「担い手」としての自覚を促す。	